

## 平成28年度水道事業会計決算について

水道は市民生活に直結するライフラインであり、都市の発展を支えるインフラとしても重要な役割を担っています。

長期的な人口減少期に入った今、厳しい経営環境が続きますが、安全で良質な水道水を安定してお届けできるよう水道施設の耐震化をさらに進め、給水サービスの向上に努めていきます。

### 給水状況

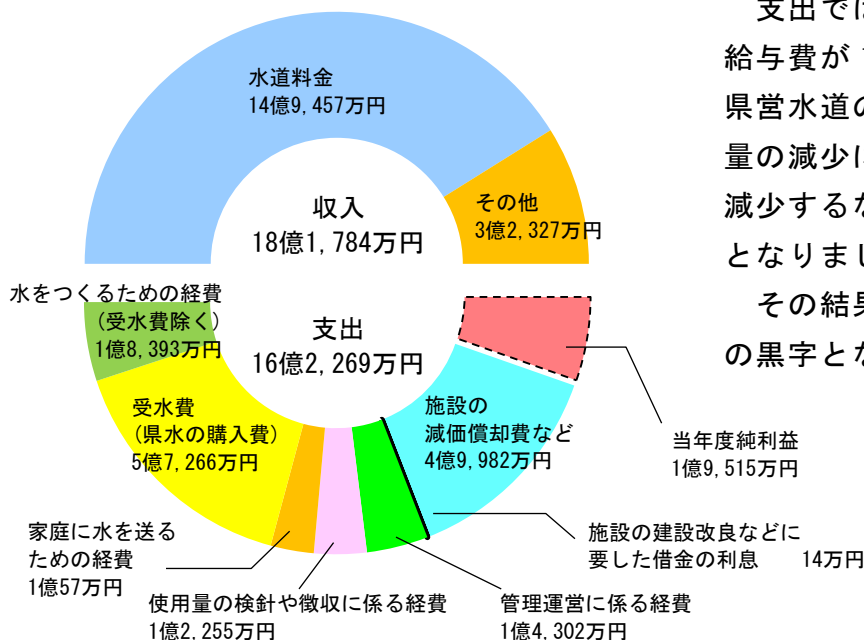
昨年度と比べ、水を送った件数は387件増え、年間の給水量も6万8,528m<sup>3</sup>増えましたが、水を使った人数は486人減りました。

工場用や営業用などの大口需要家への給水量が増加した一方で、節水意識の向上やライフスタイルの変化などにより一般家庭への給水量が引き続き減少しており、この傾向は今後も続くものと思われまます。

項目	平成28年度	平成27年度	増減	比率(%)
行政区域内人口(人) A	78,516	79,014	△ 498	99.4
給水区域内人口(人) B	78,433	78,925	△ 492	99.4
年度末給水人口(人) C	78,370	78,856	△ 486	99.4
年度末給水件数(件)	33,530	33,143	387	101.2
行政区域内普及率(%) C/A	99.8	99.8	0	100.0
給水区域内普及率(%) C/B	99.9	99.9	0	100.0
年間給水量(m <sup>3</sup> )	9,564,223	9,495,695	68,528	100.7

### 経営活動に伴う収入と支出（損益収支のため消費税等抜き表示）

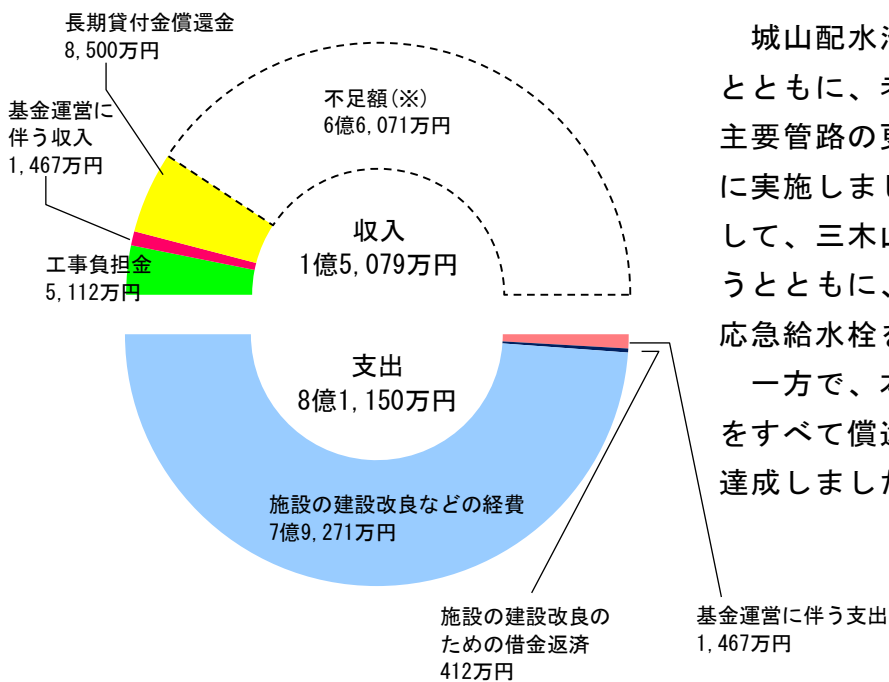
収入では、工場用や営業用などの大口需要家への給水量の増加で水道料金が1,257万円増えたことなどにより、総額18億1,784万円となりました。



支出では、職員の削減により職員給与費が1,808万円減少したことや、県営水道の受水単価引き下げや受水量の減少により受水費が2,660万円減少するなど、総額16億2,269万円となりました。

その結果、収支は1億9,515万円の黒字となりました。

施設整備に要する収入と支出（資本収支のため消費税等込み表示）

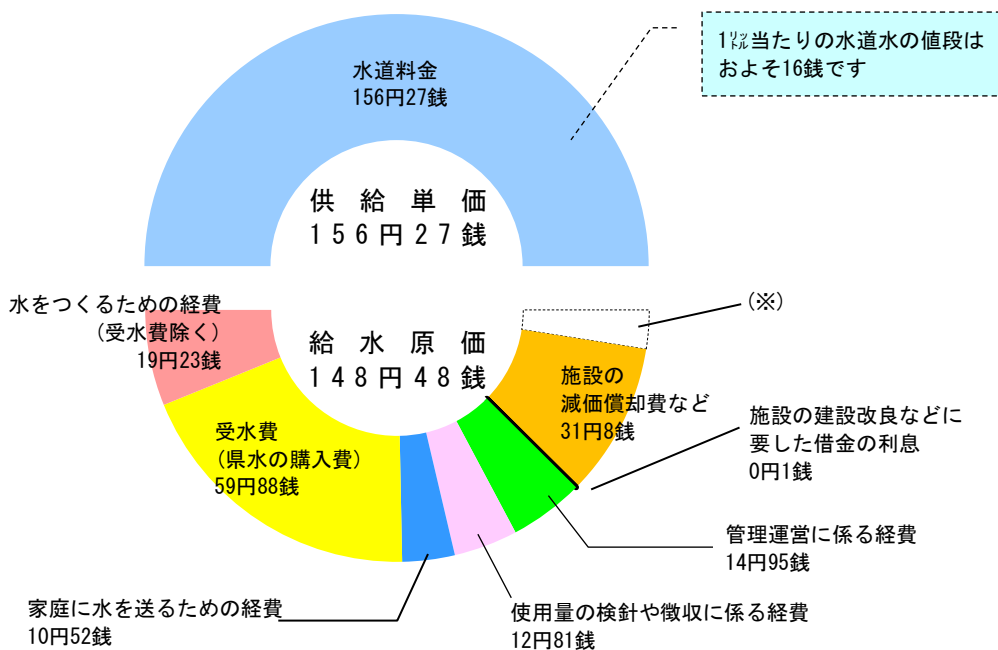


城山配水池の増設工事が完成するとともに、老朽管更新工事に併せた主要管路の更新及び耐震化を計画的に実施しました。また、災害対策として、三木山浄水場の場内整備を行うとともに、文化会館第2駐車場に応急給水栓を新設しました。

一方で、本年度で企業債（借金）をすべて償還し、有利子負債ゼロを達成しました。

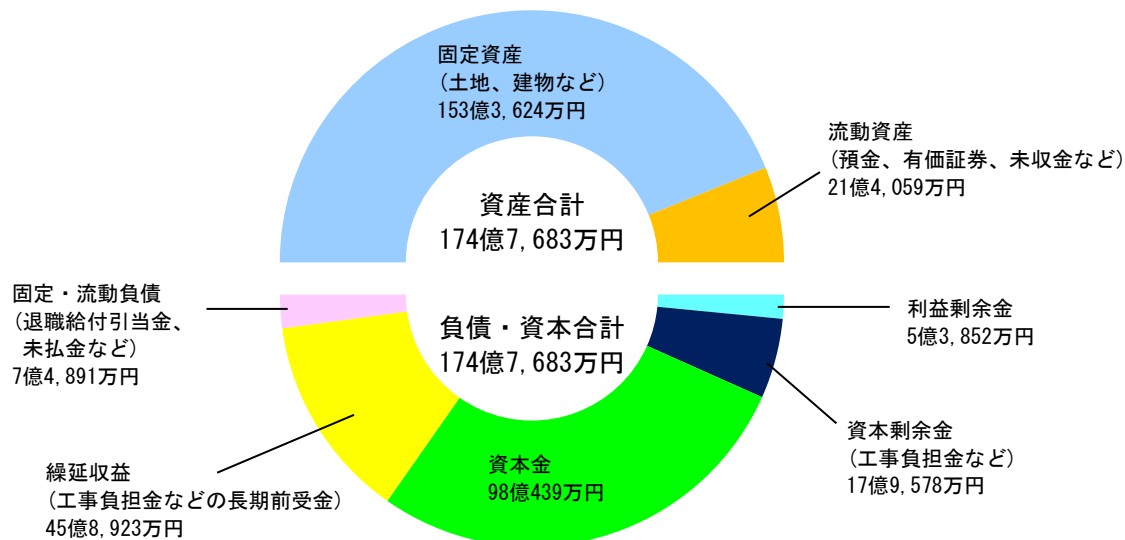
※不足額は施設の減価償却費などの内部留保資金などで補てんしました。

供給単価と給水原価（1m<sup>3</sup>(=1,000ℓ)当たり、消費税等抜き表示）



※本年度は供給単価が給水原価を上回り、料金収入で給水に必要な費用が賄われました。

## 貸借対照表（平成29年3月31日現在）

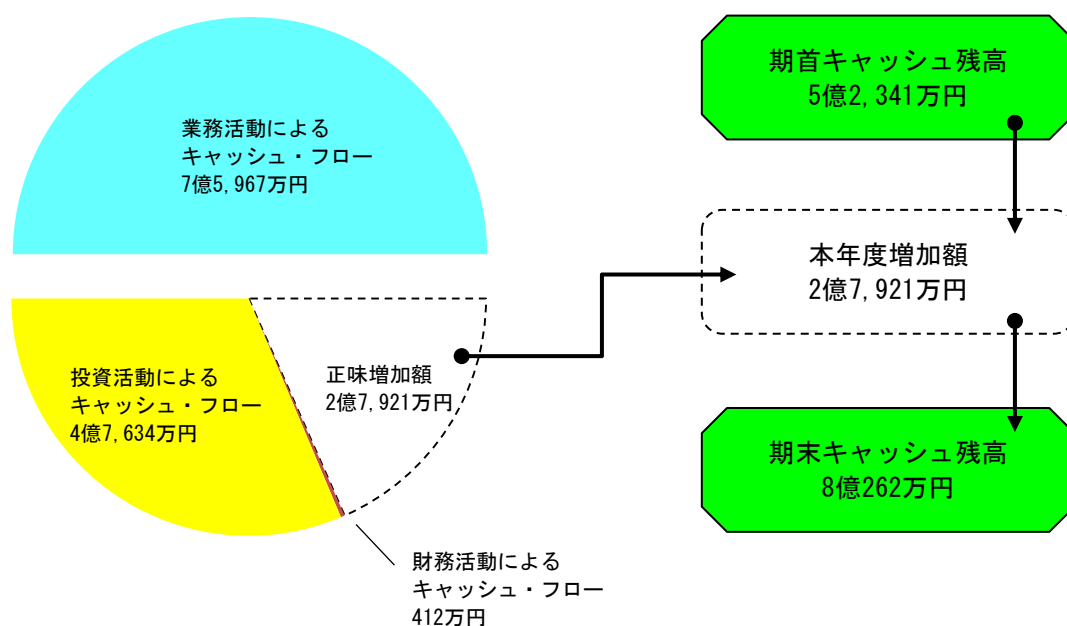


## キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローは現金（キャッシュ）の流れや増減を把握するものです。

「業務活動」によりキャッシュを増やし、設備投資などの「投資活動」や、借り入れた借金の返済などの「財務活動」を行うことでキャッシュが減少します。

本年度は、2億7,921万円のキャッシュが増加し、本年度末のキャッシュ残高は8億262万円となりました。



※業務活動：投資活動及び財務活動以外の通常の事業活動によるもの

※投資活動：固定資産の取得や売却、投資資産の取得や売却など

※財務活動：資金の調達や返済